

題字の写真は、合津さんが働いていた「雲ノ平山荘」です。北アルプスの最深部に位置するためどの登山口からでも当日中にたどり着くことが困難であり、「日本最後の秘境」と呼ばれています。7月中旬から10月中旬営業。

紅葉台



新聞

第117号

2024年
2月17日

発行人：関谷 孝

遥かなる北アの山々 紅葉台 3街区 合津

(7) 山小屋バイトの一日

雲の平小屋でのアルバイトは 朝 2 時の飯炊きからスタート - 朝食づくり・配膳 - 会計・お見送り - 清掃・寝具干し - 休憩 - 13 時ころからの受付 - 寝床づくり - 夕食提供・懇談



- 注文おにぎりづくり と続きます。これらを アルバイトの男手 3 人で 対応していました。宿泊登山者が百数十人を超える日には身が引き締まり逆に少ない日はホッとするよりも 経営面への悪影響が気になりました。

その後 社会人となり ある逸話を聞く機会がありました。

「某国の公営ホテルマンは 来客があると『ああいやだまた私の仕事が増える』とつぶやき 嘆いた」とか。それとはまったく別の思いで毎日を過ごせましたことを今でも 誇らしく ありがたく思っています。

71 食事の準備

朝食のベースとなる飯炊きは 一升五合炊きの釜 2 台を その日の登山客数に合わせ数回転。一回転には 蒸す時間を含めて ほぼ 60 分を要しました。

♪ わたしゃ 夜どおし飯を炊く (石狩挽歌) ♪ の心境でした。

この飯炊き時間を短縮できないか。「一斗炊き釜が欲しい」。

勝手な願いは なんと実現 入手。しかし なぜか生煮えでとても食に供せず 貴重なコメを捨てざるを得ない羽目に。チャレンジ 2 回目の時 途中でふたをあけて様子を確認。米自体の重さと火力不十分の為か米は釜底に鎮座したまま。攪拌の手を加えたところ万歳 OK に。

しかし この一連の作業で捨てた米が熊を呼び寄せることになろうとは思いませんでした。(熊撃退の詳細顛末は 別途ご報告) (写真 雲の平の庭園から槍を遠望)



72 憩いのひと時

忙中閑あり。寝具を天日干し後の数時間は 趣味の世界を楽しめました。

○ カメラ片手に雲ノ平の各庭園巡り ~ 写真という有形財産を残せました。

○ 水晶岳・鷲岳に駆け足ピストン登山 ~ 健康維持にもなりました。

○ 小屋に駐在の大工さんによる安曇節教室 ~ 無形財産となりました。

♪ 槍で別れた梓と高瀬 めぐり逢うのが押野崎

♪ チョコサイコロホイ

♪ もとはアルプス雪消のしずく

末は越後の海となる ♪ //

♪ 安曇踊りと三日月さまは

次第しだいに 丸くなる ♪ //

確か 数十番まで ありました。

<https://senshoan.main.jp/minyou/azumibusi-word.html>

(写真 梓・と高瀬川合流地 押野崎)

73 寝床づくり

雲ノ平山荘の定員は 120 名程度でした。

ほぼ満員の日 眠りについた後に雨が降ると悲惨でした。テントの登山者が小屋に避難してきました。熟睡中の方々をお願いして 詰めていただくことに。

最も厳しかった日には 畳 2 枚ほどのスペースに 4 人。今 思いだしても申しわけないかぎりです。

テント機材が格段と改善強化されたとの朗報も耳にする昨今 雨天時の山小屋最新事情はいかなることになって いますでしょうか。

(写真 氷見海岸からの北ア)

8 月末 アルバイトを終えると 槍沢から上高地一高山一富山と移動して海で遊ぶこととしていました。ラジオ歌謡「アザミの歌」を意識して いました。

♪ 山には山の愁いあり

海には海の悲しみや まして心の花園に ♪

『氷見の海に魚網ひきて

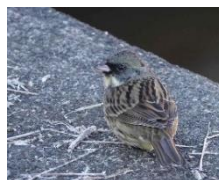
別れきし北アの山を たぐりよすかな 』



粕谷和夫の観察日記



秋に隠しておいたエゴの実を掘り出したと思われるヤマガラです。1月12日、八王子南大沢の清水入緑地です。ヤマガラは冬に備えて秋に好物のエゴの実を地面などに貯食する習性があります。



アオジです。☆多珍しい鳥ではありませんが、藪の中が好きで、あまり人前に出てくる鳥ではありません。そのアオジが湯殿川の1月定期カウント時に人のすぐ近くに来て採取していました。前日の夕方の雪で餌の取りやすい

ところが狭まっていたからかもしれません。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。